



ロータリーの未来

国際ロータリー理事
藏並 定男 (鎌倉)

国際ロータリーは、前年度から21世紀委員会を発足させ盛んに討議をすすめているが、2005年創立100周年を迎えるロータリーが、次代に向けて発展するにはどう活動すべきかが、大きな問題となっている。

この委員会の理事会への答申は大略次のようである。

- (1) 2005年には200の国、3万5,000のRC、200万人の会員を。
- (2) 世界中のRCの要請にこたえるために、たくさんの選択肢を与える。
- (3) 財団は20億ドルの基本財産を確保する。
- (4) 財政の確立と、健全な運営をなし、運営費は少なく、会員が期待する奉仕の水準を維持し、高める。
- (5) ロータリーの統一、単一の世界的組織を厳守し、組織の分散抑止。会員間の文化の多様性を認識し、ロータリーの目的と組織の普遍性を図る。
- (6) ロータリーの国際性こそロータリーの力であることを知り、世界的に理解され、認識されるよう努力する。
- (7) ロータリーの諸規則の簡明化を図る(本件は規定審議会で採択された)。
- (8) ロータリアン間のコミュニケーションを妨げる言語の障害をなくす努力をする。そのため、だれでも理解できる「ロータリー用語」の作成。
- (9) 国際社会のひとつの大きな平和団体としての自覚を持って、戦争や紛争の解決の実現をロータリアンの使命として、非ロータ

リアンにも示唆するようにする。

- (10) ロータリーの目的に沿い、各クラブが自由に奉仕活動を選択し、地域社会の要望にこたえて成功し得るようにすることが大切である。

以上がその大略である。

現在180の国に約2万6,000のRCと約114万人の会員を擁したことは驚異的發展と見てよいだろう。半面、ロータリーがなぜ奉仕をするのか…という基本理念について無関心なロータリアンの多いことも事実で、これこそ基本的教育の欠如によるものではなからうか。

極言すれば、量の上では発展したが、質の面で果たして向上したであろうか。このことは、ロータリアンの人間的素質の低下を指すのではなく、情報教育が伴わなかった…そんなふうに感ずる。

私は、ロータリーが本来の精神的基盤を取り戻すことによって、21世紀に向かってますます発展し、世界のオピニオンリーダーとしても、奉仕活動の最先端に立つものと、信ずるひとりである。

ポール・ハリスは「ロータリーはこれで良い」と述べているが、現在のロータリーが「これで良い」と思っているとすれば、退廃こそあれ発展はないという声には耳を傾けざるを得ない。

決議23-34の生まれた、1923年代と比べて、

加盟国で6倍、クラブ数で20倍、会員数で14倍、だれしも予想しなかった程の大発展を遂げた。

また、ロータリー発祥の1905年といえば、その2年前1903年にはライト兄弟が初めて空を飛び、同じ1905年にはアインシュタインが特殊相対性理論を発表、同じころ共産主義インターナショナルを目指したソビエト共産主義国家が誕生している。

飛行機や相対性理論が人類の歴史に一大変革をもたらすとは、またソビエト共産主義国家が21世紀を待たずして崩壊するとは、予想もしなかったのではなからうか。

同じインターナショナルを旗印にしながら一方は崩壊し、ロータリーインターナショナルは社会、共産主義地域にまで進出して拡大を続けている。

このようにして、発展と崩壊の相反する方向をたどった理由は何故か? 私流の考えからすれば、それは、人間の心を尊ぶか、無視するか…の点に絞られるのではなからうか…。

ロータリーが、寛容という人道主義に基盤を置き、人生哲学と実践倫理を共通の理念として持ち続け行く限り、私たちのロータリーには、永遠の発展が約束されている。私はそう信じている。

(第2780地区PG)